

【主の祈り】（カトリック／聖公会共通訳）

天におられるわたしたちの父よ、御名が
聖とされますように。御國が来ますように。
御心が天に行なわれる通り 地にも行わ
れますように。わたしたちの日ごとの糧を
今日も お与えください。わたしたちの罪を
赦してください。わたしたちも人を赦しま
す。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪
からお救いください。國と力と栄光は、
永遠にあなたのものです。アーメン

【礼拝賛美】

「いのちの水」

■ここにいのちの水が あふれ流れる
罪も けがれも 洗いきよめられる
飢え渴くものすべて 満たされていく
命なきものすべて 花を咲かす

【使徒信条】（日本基督教団 口語訳）

わたしは、天地の造り主、全能の父であ
る神を信じます。わたしは そのひとり子、
わたしたちの主、イエス・キリストを信じ
ます。主は聖靈によつてやどり、おとめマ
リヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで
苦しみを受け、十字架につけられ、死んで
葬られ、よみにくだり、三日目に死人のう
ちからよみがえり、天にのぼらました。

そして、全能の父である神の右に座してお
られます。そこからられて、生きている者
と死んでいる者をさばかれます。わたしは
苦しみを受け、十字架につけられ、死んで
葬られ、よみにくだり、三日目に死人のう
ちからよみがえり、天にのぼらました。
わたしは、天地の造り主、全能の父であ
る神を信じます。わたしは そのひとり子、
わたしたちの主、イエス・キリストを信じ
ます。主は聖靈によつてやどり、おとめマ
リヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで
苦しみを受け、十字架につけられ、死んで
葬られ、よみにくだり、三日目に死人のう
ちからよみがえり、天にのぼらました。
そして、全能の父である神の右に座してお
られます。そこからられて、生きている者
と死んでいる者をさばかれます。わたしは
苦しみを受け、十字架につけられ、死んで
葬られ、よみにくだり、三日目に死人のう
ちからよみがえり、天にのぼらました。

●決して渴かない 命の泉
信じる者みな 生き返る
決して揺るがない 命の泉
すべて麗しく 生き返る

★あなたが源 わが命 力 どこしえに
あなたが源 あふれ流れ川となる
私は生きる

「神の国と神の義」（2回）

神の国と神の義を まず求めなさい
そうすれば みな与えられる
ハレル ハレルヤ

No.29 2024・10・20

「一方マリアは、純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ取つて、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐつた。家は香油の香りでいっぱいになつた。」

ベタニア村のマリアが、イエス様の足に高価なナルドの香油を塗つた出来事は、聖書の中でもとても麗しい出来事としてクリスチヤンの心に刻まれます。

この香油は、恐らくマリアの嫁入り道具として大切にされたものです。「三百フナリ」（5）と言われるその価値は、当時の労働者の給与およそ一年分に相当します。そんな大事なものをマリアはイエス様に献げました。

しかも彼女は、それをイエス様の足に塗り、自分の髪の毛でぬぐいました。彼女は、イエス様の足もとにひざました。身を低くしたその姿は仕える者の心の表れです。

「家は香油の香りでいっぱいになつた」

ヨハネの福音書 12章3節

(3)との表現は、単に香油の香りが部屋に充満しただけでなく、マリアの行動が人々の心を打ち、感動を与えたということです。

イエス様も、マリアの行動を喜びます(7)。

これは「過越の祭りの六日前」(1)のことです。した。この過越の祭りでイエス様は私たちの救いのために十字架に架かりました。マリアの行動は、十字架の死への備えだとイエス様は仰いました(7)。罪人に仕えて十字架に架

ったには、兄弟ラザロが生き返されたこと(1)の感謝です。死から命に移され、絶体絶命の危機から救われたことは、マリアに主への深い感謝の思いを起しました。仕え

るとは、感謝の思いから生まれます。

もう一つは、主のことばを聴き、その意味するところを悟ることです。ルカ10章39節には、マリアがイエス様の足もとに座り、みことばに聴き入つたことが書かれています。遙つた姿勢でみことばを聴き、深く思い巡らすとき、みことばの意味を悟ります。マリアはイエス様の十字架の死の予告を受け止め、その十字架の一端を担つたのです。

仕える心はクリスチヤンにとって大切な心構えです。それは強制されるものではありません。イヤイヤすることでもありません。

私たちもマリアのような仕える心を育み、主の喜びにあずかりましょう(泰)

